

～団塊世代男性の地域貢献～ (NHK視点・論点原稿 2013/2/14)

恵泉女学園大学教授 大日向雅美
(NPO法人あい・ぼーとステーション代表理事)

この度、中高年男性の職業経験とパワーを、地域に活かしていただくことを目的とした講座を、東京都港区でスタートいたします。この講座は「子育て・まちづくり支援プロデューサー養成講座」ですが、副題として、「ベテラン企業人が現役時代の名刺で勝負！」とうたっています。

企画の趣旨からご説明いたします。

今、団塊世代前後の方々が定年を迎えています。これまで仕事一筋で生きてきた男性たちですが、この先、何をしたらよいか、ようやくできた自分の時間の使い方に悩んでいる男性が少なくありません。そばうちや陶芸などの趣味に生きる人、あるいは孫の世話をするイクジイも多いことでしょう。でも、それだけでしょいか？

この世代は、高度経済成長を支え、低成長期の厳しい国際競争の中で生きてきた方々です。企業人・職業人として培ってきた技術・経験は地域や国の大きな財産・宝です。その宝を、これからはぜひとも地域の子どもたちのために、地域のまちづくりのために活かしていただきたい、と願って企画した講座です。とはいえ、これまで男性にとって、地域は無縁の世界だったかもしれません。職場と家庭を往復するだけの人生だった。いきなり地域に出て、と言われても、どこに何があるのか、どこにどういう人がいるのか分からなくて、戸惑うことでしょう。

一方、地域の側も、企業人、とりわけ男性が地域に出てくることを、これまでは敬遠する傾向がありました。部長だったとか課長だったという、現役時代の肩書きをかざして、地域にはなじめない存在だ、とも言われてきました。たしかに、肩書きへのこだわり・妙な名誉心は不要です。それは上手に乗り越えていただくことが必要かと思えます。でも、この世代の方々が仕事を通して築いてきたものは、肩書き人間のプライドだけではないと思います。「営業」「経理」「人事」「情報システム」「総務」「企画」「製造・技術」、こうした部門で磨かれた豊かな発想とスキルと経験、何よりも組織人として生きてきた見識があるはずです。それが上手に地域に活かされれば、地域も豊かになるのではないのでしょうか。これまで女性と子どもだけの世界だった地域に、新たな息吹を吹き込んでいただくために、現役時代の企業人の経験を活かして「名刺で勝負！！」していただく企画なのです。

それでは、具体的にどのような活動が考えられるでしょうか。

例えば地域の保育や子育て支援現場、あるいは教育現場のバックオフィスとしての支援が考えられます。保育者や教員は、日々子どもや保護者とかかわっています。それぞれの専門的な仕事の他にも、施設の管理・経理・防犯、広報、地域とのネットワークづくりなどの仕事に追われています。定年後の団塊世代の方々が、長年の仕事を通して得た知識と技術を発揮して支えて下されば、保育者や教員は専門の保育や教育に専念する時間が増えます。

私は、この講座を企画運営する子育て支援のNPO法人の代表理事もしておりますが、そこには長年、企業で経理を担当してきた男性がいます。日々のお金の出し入れやスタッフの給与計算など、法人の経理全般を見てくれていて、とても助かっています。

全国にはNPO法人がたくさんありますが、専門性と当事者性には優れていても、運営が苦しい、経理が苦手、助成を受けたくても、応募の仕方や企画書の書き方が分からない、行政や他機関との連携に苦労している、という声も少なくありません。そこに企業人の知識や技術が活かされれば、互いに得るものが大きいことは、経験からも実感しているところです。

また、小学生や中学生が将来の職業観を育むためには、団塊世代の方々が内外の仕事の現場で培ってきた経験談に勝るものはないと思います。友だちとの関係に悩んだり、いじめに苦しんでいる子どももいます。人生経験豊かな中高年男性が身近に寄りそって、話を聞いてくれたら、どんなに励まされることでしょうか。

さらには、今、多くの自治体が外国からの人々を迎え入れています。商社等には世界各国で仕事をしてきた人材がいます。豊かな語学力と異文化経験を地域の国際交流に活かしていただければ、グローバルな観点からのまちづくりができることと思います。

以上は、団塊世代の男性たちの地域貢献として考えられる活動の一例ですが、こうした活躍をしていただくための講座の内容について、ご説明いたします。

まず、子どもの心理や発達について学び、子育て支援に関する施策や地域の資源等について知っていただくことから始めます。子どもや地域の子育て支援は、全くと言っていいほどなじみのない世界だ、という男性も少なくないと考えられるからです。

また、コミュニティ・デザインについては、各自の経験を出し合い、それを行政や地域の関係機関とどうつなぐかについて学び合う、ワークショップ形式の時間も用意いたします。そのためには行政担当者や企業からの講師人も予定しております。



この養成講座は、ある生命保険会社（住友生命保険相互会社）の「未来を強くする子育てプロジェクト」の助成を得て、NPO法人あい・ぼーとステーションが企画運営するものです。認定もNPO法人の認定となりますが、認定後の活動については、各地の行政と連携し、相談しながら、新たな地域のニーズを発掘し、これまで行政だけでは担えなかった分野を積極的に支えていくという、提案型の活動を予定しています。まさに行政と企業とNPOの協働で、地域創造を目指した新たな取り組みです。

連携先の行政としては東京都の港区と千代田区、千葉県のパ安市を予定しております。その理由は、企業人がたくさん活躍している行政区であるだけでなく、実はこの3つの自治体は、NPO法人あい・ぼーとステーションと協働で、2005年から地域の子育て・家族支援者養成に取り組んできた自治体です。すでに1100人を超える支援者が誕生し、施設での一時保育や地域の子育て家庭に出向いての支援に活躍しています。

が誕生し、施設での一時保育や地域の子育て家庭に出向いての支援に活躍しています。

しかし、支援者のほとんどは子育てや仕事が一段落した女性です。地域は女性によって支えられていますが、この実績をもとに、今度は男性たちの地域デビューを企画した次第です。企業人が地域に参画して下さることで、地域に新たな可能性が芽生えることを期待しております。

講座スタートに際しての記念シンポジウムは2月24日、東京都港区の六本木で、講座は3月から港区南青山の「子育てひろば（あい・ぼーと）」で開催の予定です。（以上）

子育て・家族支援者

【港区】2004年度～ 【千代田区】2006年度～ 【浦安市】2006年度～

認定後は「子育て・家族支援者」として、地域の子育て支援の現場で活躍

その他、地域の状況に応じた人材養成

- ▶ 港区・・・ひろばコンシェルジュ
- ▶ 浦安市・・・子育てケアマネジャー
- ▶ 浦安市・千代田区・高浜市（愛知県）では、家庭的保育者の養成にも対応